



KANAIWA ONO
ART PROJECT

通信

金石スタジオ

9

金沢21世紀美術館が進めている金石大野芸術計画(Kanaiwa Ono Art Project)のその活動の拠点となっている金石スタジオ(金石松前町1番16号)から、毎月みなさまに、最新情報をお届けするニュースレターです。

AIR
アーティスト・イン・レジデンス

かないわ楽座

7月3日(土)〜31日(土)(終了)
【レポート】

七月三日より約一ヶ月間、「かないわ楽座」では、アーティストやクリエイターが金石のまちなかにお邪魔し、暮らしのそばに新しい「場」を開いて活動してきました。金石のみなさんには、そうした「場をつくる」ところからお力添えいただき、活動中にはさらに多くの方にご参加いただきました。本当にありがとうございました。とりわけ快く店舗を会場としてご提供いただきました旧田村化粧品店、旧樫田堂、辻洋傘店、旧こうの、宮野邸の関係者の方々にはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、「かないわ楽座」はいかがでしたか？九州は久留



牛嶋家「玉、海へ帰る」

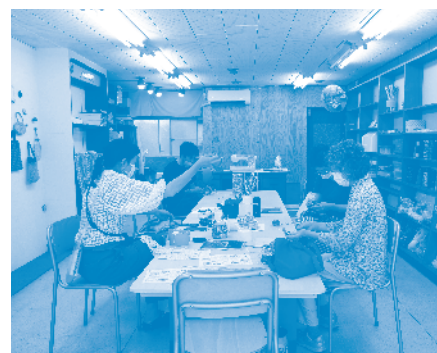
米からやってきた「牛嶋家」は、母オーギカナエさんがワークショップをしたり、父ウシジマヒトシさんの球形の作品《ころがるさきの玉》ころがる玉の《さき》を転がしたり、分解したり、海に浮かべたりと、一家で金石を満喫し、参加された方と交流を深めました。「辻家の森」では、角島泉さんが店内を植物が繁る森に変え、塩谷美馨さんが森に因んだ素敵なお菓子をつくってくれました。公民館の

向かいでは、宮田明日鹿さんが「金石手芸部」を開き、連

日、金石内外の方が時間を忘れて編物や刺繍に没頭し、旧樫田堂では、三人の金沢在住の作家がそれぞれの得意分野を活かして、石彫や陶芸、アニメーションの制作や体験の場がつけられました。

また、週末になると宮腰緑地では「かえっこバザール」が開かれ、子どもたちが切り盛りする交換のマーケットからはいつも笑い声が聞こえてきました。「宮野邸 海が繋ぐ」では角島さんのコーディネートで築一三〇年以上の素晴らしい町家が活かされ、訪れる人たちが器や花を愛でていました。

こうしたアーティストたちの活動以外でも、ご協力いただいた軒先や店頭に、かつての金石の風景や風物の写真が掛けられ、散歩がてらみなさんにご覧いただく「商店街写真館」となりました。こうした「かつての金石」を辿っていくと、アーティストたちが



宮田明日香「金石手芸部」

活動する「今の金石」に遭遇し、そこでの体験や出会いや発見が「これからの金石」を考えるきっかけになればと考えています。「かないわ楽座」は終了しましたが、それは一時的な集客というよりも長い時間をかけたまちづくりの第一歩に、ここで得た何かがいつか別のかたちで芽を出したり、花を咲かせたりと、金石に暮らすみなさんそれぞれの中にとっと入り込んだ種のようなものになってくれることを願っています。(中田耕市、金沢21世紀美術館シニアキュレーター)

【インタビュー】

田村くに子(旧田村化粧品店店主)

お店の片付けや天井のペンキ塗り、地域コーディネートターの皆さんが手伝ってくれ

て綺麗になりました。一人じゃできなかったから本当に助かりました。「かないわ楽座」が始まってからは牛嶋さんと一緒に店番、地元の知り合いやお客さんとの会話が弾んで、当時のお店を思い出しました。人と会って話すのは元気をもらえますね。準備から終わりまで楽しくてあつという間でした。毎日お店に出ているだけで全然疲れなくて、私自身驚いています。もしかして、生きがいになってきたのかもしれないですね。お店も綺麗になったことだし、また賑やかな場所を作れたらいいなど思います。



店番をする田村くに子さん

渡辺秀亮(金沢21世紀美術館地域コーディネーター)

はじまる前はすごく長く思えた一ヶ月間ですが、実際には、あつという間に会期が終

わかってしまい、もっと続けたいと強く感じました。

ワークショップ「石のおまんじゅうを磨こう」で、おまんじゅうを見立てた石を磨いてもらいました。前半は様子を見ている方が多く、それから段々と参加者が増えていき、後半には多くの方に参加してもらえました。石を磨くという一見、面白いのかわからない、面倒くさそうな行為ですが、参加者の中でも大人である一定の方が、尋常ではないくらい「磨き」にはまり、こだわり、びつくりするほどピカピカに光らせて帰っていきました。みなさんが持ち帰った「石のおまんじゅう」が、それぞれのお宅で輝き続け、このワークショップを思い出してもらえたら嬉しいですね。



渡辺秀亮「石のおまんじゅうを磨こう」

金石という地域の通町商店街の旧樫田堂という空間で過ごせたこの一カ月間は、自分

にとつてもとても大切な時間となりました。かないわ楽座を通して出会えた人々に感謝をしつつ、みなさんの中に何かしらの形を残すことができたら幸いです。



菊谷達史「金石海岸での屋外写生会」

地域コーディネーター兼参加アーティストという立場で関わってきた「かないわ楽座」が終了し一ヶ月経ちました。四月から五月にかけての準備期間。七月の「かないわ楽座」開催期間。この約四ヶ月金石大野に足繁く通っては町の雰囲気を観察し、食や風土を摂取し、時に歴史に思いを馳せつつ、総じて楽しく活動してきました。絵画を展示施設で一定期間公開する展覧会という場を中心に活動してきた僕にとつて、自分の活動を「楽しく」と表現し振り返る事は

これまでありませんでしたが、金石での活動はこれがまさに相応しい言葉だと思えます。僕は「旧樫田堂での公開制作」と「金石海岸での屋外写生会」を二本柱で活動しましたが、これを移動と集合のリスクが叫ばれるコロナ禍の中でやれたという事に、僕にとつては大きな意味がありました。人と出会う事は楽しいです。このような機会を与えてくれた金石の皆さんと、金沢21世紀美術館スタッフの皆さんに感謝致します。

中島大河「手びねりのワークショップ」の様子。手芸のワークショップで作業している様子。"/>

中島大河「手びねりのワークショップ」

既に二ヶ月も前のこととなつてしまいましたが、「かないわ楽座」にて手びねりワークショップをしていました。焼き物という身近なものがどうやって作られているのかを、少しでも理解できる助け

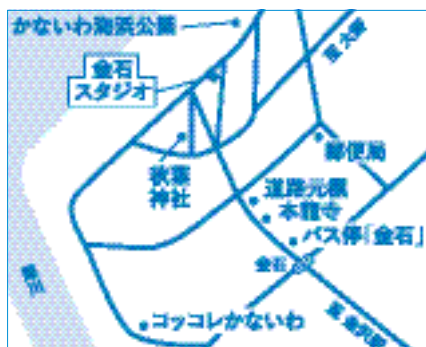
になれればと考えた企画ですが、予想していたよりも多くの方にお越しいただけとても嬉しかったです。個人的にももっとゆつくりと金石のことを知ったり、色んな方々とお話したいと思っていたのですが、時勢を考えると開催できたことだけでもありがたいことだつたと今になって思っています。準備から片づけまでの間に様々な方から温かい言葉や差し入れをいただき支えていただきました。金石は金沢の海の玄関口であつたと思います。突然やってきた余所者である自分を温かく受け入れていただいたことは、金石という町が育んできた風土なのかなと嬉しく感じています。もしかしたら今後どこかでお会いすることがあるかもしれませんが、そのときもぜひ気軽に声をかけていただければと思います。

二〇二一年九月をもちまして地域コーディネーターの渡辺秀亮、菊谷達史、中島大河は任期満了となりました。短い期間ではありましたが、皆さまのご協力に感謝いたします。

お知らせ

お知らせ

金石スタジオ 情報発信中
Instagram
facebook



金石スタジオ
金石松前町1番16号
バス停「金石」から歩いて5分、海岸通り沿いです。公共交通機関や徒歩、自転車などをご利用ください。
スタッフ常駐は、毎週土曜の14時〜17時です。

金石・大野周遊シャトルバス
金沢駅から金沢港クルーズターミナルを経由して金沢港周辺地域を巡るシャトルバスが期間限定で運行します。
運行日：7月17日(土)〜9月26日(土)の土・日・祝 運賃：1日乗車券/大人(中学生以上)700円、子ども(小学生)350円、小学生未満は無料 ※詳しくはWEBへ